

五者協議の開催について

令和3年3月3日、都、組織委員会、国、IOC、IPCの代表が出席する五者協議が開催された。

1 出席者

小池 百合子 東京都知事

橋本 聖子 組織委員会会長

丸川 珠代 東京リビッパ競技大会・東京パリビッパ競技大会担当大臣

トーマス・バッハ IOC会長

アンドリュー・パーソンズ IPC会長

2 会議の概要

(1) 主な発言

① バッハ IOC会長

- ・全てのアスリートのために安全安心な大会とし、公正な競技を行いたい。
- ・大会成功のために最も大事なことはコロナ対策であり、日本国民・東京都民のためにもしっかりやっていかなければならない。

② 橋本 組織委員会会長

- ・コロナ対策を一層充実させるため、追加的な施策について、専門家の知見を得て、全豪オープンなど、直近の大会の対策を参考にしながら進めていくなど、コロナ対策に万全を期し、安全安心最優先の大会としていく。
- ・ジェンダー平等と共生については、理念を述べるだけではなく、一つでも多く具体的な行動に結びつけていく。
- ・この夏の大会での取組を東京モデルとして捉え、今後の大会、そして今後の社会に引き継ぐよう取り組んでいく。

③ パーソンズ IPC会長

- ・アクセシビリティ、バリアフリーの環境をそろえ、全ての関係者の健康と安全、特に選手及び日本国民の健康と安全が最優先事項であり、最大限の努力をして大会を成功させたい。

④ 丸川 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣

- ・この夏の大会を成功させるために、何よりも日本国民に安心して大会を迎えられるとあっていただけることが重要である。安全・安心な形での大会の開催を最優先し関係者が一丸となってコロナ対策に臨む必要がある。
- ・復興オリンピック・パラリンピックは、私たちの原点である。多様性と調和は、大会の基本コンセプトであることを再認識し、男女共同参画という理念に沿った大会の開催が重要である。政府としても全力で取組を進める。
- ・海外からの観客については、変異株の影響等が予測できない中で、現時点で今夏の入国の可否を見通すことが困難であり、慎重な判断が必要である。

⑤ 小池 東京都知事

- ・安全・安心な大会とする必要があり、コロナ対策は極めて重要である。世界が一丸となってコロナ禍を乗り越え、開催する大会であり、日本だけでなく、世界中の人々にとって希望の灯かりとなる。
- ・大会ビジョンである多様性と調和を具現化していくことが重要。2回目のパラリンピック開催となる東京大会の成功は、正しく共生社会の実現につながる。これらを、大会のレガシーとしていきたい。
- ・1920年のアントワープ大会は、「危機の後の連帯と復興」の象徴であった。東京大会を、サステナブル・リカバリーを目指すオリンピック・パラリンピックの新たなモデルとして成功させたい。

(2) 主な確認内容

大会に向け、以下の点について認識を共有するとともに、引き続き連携していくことを確認した。

① コロナ対策

- ・安全安心な大会運営を最優先とし、新型コロナウイルスの変異株への対応やワクチン等の課題についても、引き続き緊密に連携していく。
- ・海外から来日する観客については、国内外における新型コロナウイルスの感染状況や防疫措置、専門家による科学的知見等を勘案し、3月中に判断する。
- ・会場における観客数の上限については、国内のスポーツイベント等における上限規制に準拠することを基本に、専門家による科学的知見等を総合的に勘案し、4月中に判断する。

② ジェンダー平等

- ・大会開催を通じ、ジェンダー平等、共生社会など「多様性と調和」の一層の具現化に取り組んでいく。